

今回のテーマ

ホームページ用

# わたしたちの「せきにん」

9月25日の生徒会朝会は、生徒会執行部による「いじめゼロ集会」でした。『わたしのせいじゃない』という絵本を全校生徒で読み、Google フォームに感想などを入力しました。生徒たちは真剣に考え、様々な問題を関連させて考えていました。感想の一部を裏面に紹介します。



文:レイク・クリスチャン 訳:にもんじ まさあき(2017)  
『わたしのせいじゃない 一せきにんについて』岩波書店。

前期生徒会執行部より

以上で、9月の生徒会朝会を  
終わります。みんなの力でいじめ  
ゼロの学校にしていきましょう!

いじめゼロ

し ない  
負 けない  
許 さ ない



35

～内容説明～

一人の男の子が泣いている  
わたしは知らない、みんながやったんだもの……言い訳が続く。いじめ問題やその他の社会問題を考えるのに責任について考えるスウェーデン生まれの絵本。一人読みとは違う「いっしょ読み」の良さを感じ、いっしょに読んでみんなで考えてほしい…

(参考)

<https://www.iwasakishoten.co.jp/book/b278684.html>

平和に関する「人類最大の祭典」が今年の夏に開催されました。オリンピック・パラリンピックです。この祭典には、どのような願いが込められているのでしょうか?

「オリンピックを知る」より (公益財団法人日本オリンピック委員会 <https://www.joc.or.jp/olympism/>)

人類最大の祭典、オリンピック。それは、スポーツを通じて世界を平和にしたいという願いから生まれました。

19世紀の終わり。ひとりの教育者、ピエール・ド・クーベルタンが平和を願ってはるか昔の祭典をよみがえらせたのです。その祭典とは、古代オリンピック。古代ギリシャで行われたこの競技の祭典は、4年に1度開催され、1000年以上もつづきました。戦争の絶えない時代でしたが、この祭典の期間は休戦をし、同じ人間として、みんなで競技の勝者を称えたのです。

1896年。オリンピックは、スポーツの祭典として近代に生まれ変わりました。第1回大会は、アテネで開かれ、参加したのはわずか14か国でした。

(中略)

戦争や、差別や、国際社会の対立を乗り越え、人種も宗教もちがう人びとがひとつとなって、200以上の国と地域が参加する、人類最大の祭典となったのです。

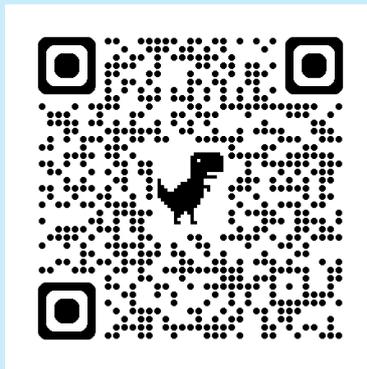
紹介記事

2024年8月11日 朝日新聞朝刊「序破急」

## 選手と観客席 共鳴のドラマ

西山良太郎(スポーツ社説担当)

を紹介しました。



<https://digital.asahi.com/articles/DA3S16008328.html>



女子52キロ級2回戦でウズベキスタンのケルディヨロワに敗れ、ぼうぜんとして座り込む阿部詩=2024年7月28日、シャンドマルス・アリーナ、西岡臣撮影



7月29日、体操男子団体の鉄棒で大歓声を受けた橋本大輝。次に演技する中国選手のため、静かにするよう観客に促した

左の写真 [https://digital.asahi.com/articles/AS57X2HRDS7XUTQP03LM.html?iref=pc\\_ss\\_date\\_article](https://digital.asahi.com/articles/AS57X2HRDS7XUTQP03LM.html?iref=pc_ss_date_article)

右の写真 <https://digital.asahi.com/articles/DA3S16010426.html>

# 学校の教室で、ひとりの子供が泣いています。 いったい、どうしたのでしょうか？

【1年】最初に写真を見たときは、あまりにも非日常で、普段考えたこともなくて、私にはほぼ何も関係ないと思った。でも絵本を読んで、やっぱりどこか、小さな接点でも、私にも関係あるのかなと思った。一見自分のせいじゃなくても、自分にだって悪いところがあるんじゃないかとしっかり考えるようにしたい。

【2年】いじめはしてはいけないことだと改めてわかりました。「自分はやっていないから」「他の人もやっていたから」などの言い訳は、許されないと思いました。私の身の回りでもこのようなことがあったら、見ているだけではなく、止められる人になりたいと思いました。

【3年】絵本を読んで、自分にできることがあるのにそれをやらないというのは良くないことだと思いました。そして、絵本の後半に出てきた写真を見たら、海外で困っている人たちのために自分にも何かできることがあるのかもしれないと考えました。これからは新しい視点を持って生活していこうと思いました。

【1年】「世界が平和になってほしい。」と思っているだけなんだなと思いました。行動に移すことが本当に思っている人だと思います。それは学校で起こるいじめなどでも同じだと思います。本当はだめだと気づいていても、なんとなく多数派に行ってしまうのは違うかなと思いました。

【2年】自分に関係のある出来事というのはどこまでなのか？自分が関わってなくて関係ないからと、その場をそのままにしているのか？いや、もし自分が全く関係なかったとしても、何かその場の問題を解決することができるならそれをするのに越したことはない。自分ができることを見極め、それを最大限していきたい。

【3年】自分が加害者にならないように周りの人に流されすぎず、いじめなどの問題に対しては自分の強い意志を持って行動できる人間になりたいと思った。

すぐに人のせいにするのではなく、自分のせいかもしれないと考えてから物を言うようにしなければいけないと感じた。

【3年】今日の朝会を通して、世界で起きている問題は、私達が関わっていないと言い切れないのかもしれないなと思いました。例えば、環境問題や、国同士・民間同士の戦争、今日の動画にあったいじめなどの問題を、「私は関係ないからいいや」と思い、そのことについて触れないでいると、将来自分がこうなってしまったときに誰も助けてくれないのではないかと思います。

【2年】今世界で起きている戦争や紛争について、今までは「かわいそう」「その国の首相は何かしないのか」など、他人事のように考えていた。しかし、このお話を読んで、同じ地球上にいる自分も何もできていないと感じた。世界のためにできることを考えてやってみたい。

【1年】最初は「私には少ししか関係ない」と思っていたのですが、いじめの話聞いて、私がしているのは「わたしのせいじゃない」と思っている人たちと同じじゃないかと思いました。

直接手伝うことができなくても、考え方を変えたり意識を変えたりすることができるということに気が付きました。

絵の協力者： 3年3組 山口 結さん